

# 次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ①



## イチゴひと粒への想い

私の家はイチゴの専業農家です。祖父母の代からイチゴの栽培を始め、現在では父を中心に「とちおとめ」の栽培を行っています。

私は、農業と加工を勉強したいと考え、茨城県の農業高校に入学し、農業科の流通戦略を専攻し、農産物の栽培と加工、そして販売などといった農業の6次産業化につ

いて学びました。

将来、家の経営を引き継ぎたいと考えており、イチゴの栽培の知識や技術を学ぶため、父の母校である、栃木県農業大学校に進学しました。大学校では「スカイベリ」の養液土耕栽培を選択し、卒業論文では、「スカイベリーの摘花（果）効果」の試験に取り組み、収量調査や糖度調査・生育調査を行ってきました。

大学校の実習時、気温の上昇とともに、不受精果と過熟果、また収穫時に傷をつけてしまった果実

がたかさがたくさん出てしまいがたくさまい、廃棄せざるを得なく

なっていました。イチゴの栽培は簡単ではありません。害虫や病害も多く、葉かきは手間がかかります。収穫は早朝から行うなど丹精込めて管理しています。

そうして作ったイチゴがただ捨てられていくことが残念でなりません。私は、味に違いはないのに

出荷できないそれらのイチゴを使って、パンやお菓子、ジャムなどといった加工品を作り、付加価値をつけ販売したいと思っています。

そして将来は、家のイチゴ栽培を基軸に、6次化も含めた経営に取り組んでいきたいと考えています。そして、多くの人に農業の「素晴らしさ」、「大変さ」と「楽しさ」を知ってもらい、共に農業を担う仲間を作り農業を発展させていきたいと考えています。

（園芸経営科野菜専攻 横田美佳）





# 栃木で指折りの酪農家を目指して

私は将来、栃木で指折りの酪農家になりたいと思っています。なぜかというところ、私の両親は酪農を営んでおり、生まれたと



きから家のすぐ横に牛がいる環境で育ったというのも理由の一つですが、一番は両親に親孝行をしたいからです。

そう思った私は、まず農業高校で野菜や草花、畜産といった農業の基礎を学びました。高校2年生の時、北海道の酪農家さんを実習で二週間お世話になりました。その中で、もっと牛に関わりたい、牛についての知識を今まで以上に身につけたいと思い、栃木県農業大学校へ入学しました。

現在二年生になった私は、搾乳牛についての研究を進めています。それは、牧草サイレージと配合飼料を別々に牛に与える分離給与体系に対して、あらかじめ混合したものを与えるTMR給与体系が、乳量にどんな影響を及ぼすのか？というものです。農大は去年まで、つなぎ管理の分離給与でした。しかし今年からは新牛舎フリーストールでの飼養管理がスタートし、牛に与える飼料もTMRに変わりました。今はまだデータを集めているところですが、去年より乳量が多く出ていることを実感しています。また、乳脂率などの乳成分も調査していきたいです。



将来の目標に一步近づぐためには、大規模経営も学ばなくてはいけないと思っています。そのために、卒業後はアメリカへ研修に行き、経営を学ぶことはもちろん、もっと精神的に強くなって日本に帰ってきたいと考えています。

(畜産経営学科 薄井大貴)

〈TMR〉粗飼料・濃厚飼料等、牛が必要とする栄養素をバランスよく含んだ混合飼料 (Total Mixed Rations)。分離給与と比べて牛が選べないため栄養バランスがよい。  
〈フリーストール〉牛をつながず、自由に歩き回ることができる構造の牛舎。牛の休憩場所 (ベッド) は一頭ずつのスペースに仕切られている。